公務員を目指す人材だからこそ、人づくりという視点に重きを置いて指導しています

NSGカレッジリーグ　新潟公務員法律専門学校

教務部長　有馬 博宣（ありま ひろのぶ）　様

Q1：はじめに新潟公務員法律専門学校についてお教えください。

本校はもともと新潟ビジネス専門学校に、公務員になるための専門学科が設置されたことが起こりとなっています。それが1987年のことで、その後1998年に新潟公務員法律専門学校として独立しましたので、そこからは20年ちょっとの歴史ということになります。

特色としては様々なものがあげられますが、なかでも一番と言えるのは「人づくり」に力を入れていることです。これはプログラムにも顕著に反映されているのですが、公務員の筆記試験は通って当たり前と考えて、そこから先の面接試験に対応できる人材を育てる、そのための人づくりに注力しています。

これは校訓でもありますが、本学には学生に求める３つの要素があります。それは明朗と誠実、そして奉仕の心を持つことです。もともとは前校長が考えられたことだそうですが、公務員を目指す以上は、様々なことが大切になるけれども、まずは明朗であり誠実でありなさい。そして特に奉仕の心はきちんと持ちなさいということです。パブリック・サーバントですからね。そういった点も含め、人間教育の部分に注力しているという点が特色といってよいかと思います。

設置の学科としては公務員試験に関して、２年制の公務員ビジネス学科と、同じく２年制の警察消防学科、そして１年制の公務員速修学科、この３つの学科が高卒程度の公務員を目指す学科になっています。それと２年制の学科として、法律を学び、大卒程度公務員の受験をしていく上級行政学科があるのですが、こちらは今年が最後となっていまして、上級行政学科は新しい学校、新潟法律大学校に移行していくことになっています。

Q2：新たに設置された新潟法律大学校とはどのような学校なのでしょうか？

新潟法律大学校は2019年4月に開学いたしました。実はこれまで、県内で法律についての専門知識を学ぶことができる場所が非常に少ない状況にありました。新潟県では新潟大学の法学部くらいですし、隣接各県にも法学部を設置している大学がほとんどないといった事情もあり、各方面からの要請もありまして、新潟法律大学校を開学する運びとなったのです。

新潟法律大学校には３つの学科があります。法律公務員学科は４年制と２年制の２つで、２年制は新潟公務員法律専門学校に設置されていた上級行政学科と同様のものです。また４年制は大卒程度公務員のほか、行政書士や司法書士といった司法の専門家を目指すためのものです。

もう一つの法学部併修学科については４年制となっていて、こちらは中央大学さんとのダブルスクールのプログラムとなっています。中央大学さんとは以前からお付き合いがあるのですが、今までにない形のタイアップ、つまり単位互換ができるカリキュラムになっています。専門科目の法律は中央大学の通信教育のプログラムに則って進めていくとともに、それ以外の科目は、こちらで独自授業を行ったうえで単位互換していただくことで、中央大学法学部の卒業資格を取得することができるというものです。学生の負担が大きく軽減されていますので、理想的なダブルスクールかなと思っています。

Q3：公務員試験の実施状況について教えてください。

全国的な流れだとは思いますが、やはり公務員の採用人数はぐっと縮小していますね。特にその傾向が大きいのは公安系です。これは大卒程度も高卒程度も同様のことがいえます。今年行われる東京オリンピックへの備えや、団塊の世代の大量退職を見据えて、特に公安系で増えていた採用が、ここからは益々絞られてくると思います。

一方で行政系はどうかというと、こちらも減少傾向ではありますが、それほど顕著なものではありません。上級、初級共に同じような傾向がありますが、市町村によって上級職をより取りたいとか、初級職をより取りたいといったところなど様々だと思います。 ただ全体的に見ると、 上級職を取りたいと考えてらっしゃる 自治体の方

【発行】TAC株式会社 法人事業部 東京都千代田区神田三崎町3-2-18 TEL:03-5276-8918
本誌は、著作権法その他関連法令によって、著作権等の権利が保護されている著作物です。
法的に認められる場合を除き、著作権者の許可なく、無断で、複製、頒布、譲渡、貸与、転載、公衆送信等に使用することはできません 。

が多いように感じられます。

出題といった部分に目をむけると、本学の学生たちが、全国津々浦々の自治体等を受験していることから見えてくるのですが、近年の全体的な流れとして、教養試験の社会科学が重視される傾向がありますね。問題の出題数にしろ、内容にしろ、そういった様子がうかがえます。

また歴史や地理、政治、経済といった分野でも、時事に関連する出題が多くなってきていますので、本校でも時事問題対策には力を入れています。その他の教科でいうと、英語の出題が少しずつ増えてきているということや、資料解釈の出題も増えている気がしますので、このあたりは綿密に組み立てて、きちんとカバーできるような授業立てにしています。

それから新潟市の上級職では、旧来からの教養科目と専門科目で行われる試験に加えて、東京都などでもおこなわれている、プレゼンテーションなどに重点を置いた新方式での試験もおこなわれています。同様に、金物で有名な三条市や長岡市など、教養プラス専門といった旧来の形をやめているところが出てきています。本校でも授業の中にSPIのほかそういった新方式試験対策を組みこんでいますが、今後はこういった部分も重視していかなければならないと思っています。

そのほか論文や作文についてですが、特に行政系ではしっかりと読まれると聞いています。いずれにせよ論作文のスキルは、面接力にもつながると考えていますので、専門の先生お願いして、１年生の時からしっかりと書けるように授業展開を進めています。

面接試験で問われるのは、大きく分けると過去の話と未来の話になります。自身の過去と、これからのビジョンです。どうやってここまできたのか、つまりどうして公務員を志望するようになったのかということですね。そして公務員になったら、例えばどんな街を、または国を作っていきたいのか、といったような、過去と未来の話をするわけです。これは、論作文に通じるものだと思いますので、きちんと練習していきます。ともすればベタと言われるかもしれませんが、なぜ公務員なりたいのかといったことから、どんな公務員になりたいのか、将来はどんなことをしたいと思っているのか、といったことを一つ一つ積み上げていって本番に向かえるようにします。

もちろん直前期に入れば、担当の教員がこの自治体ではこれが出題されるのではないかとか予想をしっかりたてて、狙われそうな論題をいくつか選び、そういったものについても練習を積み重ねます。そのほか、年が変わっても必ず問われるような内容もありますから、そういうのも確実に押さえるなど、論作文対策はしっかりやっています。予想は毎年、そう大きく外れないですね。

公安系については、東京消防庁や各自治体の消防官は、もう論作文を書けないとダメです。どんなに一次の点数が高くても、論作文がダメだったら全然話にならないと切られてしまいます。やはり論文や作文は受験者の人柄、考え方を知るツールとして最適だということです。ですからしっかりと準備はしていますね。

Q4：御校の学生さんの卒業後の進路について教えてください。

数値的なものからお話をしますと、公務員試験における本校の最終合格率は例年８割から９割の間でしょうか。良い年では９割近く、悪くても８割を切ることはないですね。少なくとも一次試験に関してはほぼ通ります。一次はちゃんと勉強してもらえれば通りますので。ただそこから先が難しいのが公務員試験ですからね。そういったことから、最初にお話ししたように人物を育てる取り組みを、あれやこれやと頭をひねって、色々とやっています。

進路としては県内外、もう本当に色々なところに行っています。特に大卒程度の場合はよりいっそう人間力で評価していただけるので、関東圏中心ですけれども、各地各方面にご採用いただいています。珍しいところでは新潟県の柏崎市出身の学生で、栃木の那須町に行ったというケースがありました。ほかにも長野県の野沢温泉町に決まった学生もいます。ただ全体で言えば関東圏が多いですね。

高卒程度はというと県内採用も多いですが、もともと本校は山形や福島、長野、富山といった近隣県出身の学生も少なくないので、そういった学生は地元の自治体に戻るといったケースも見られます。

そのほか国家職を含め公安職は全国あちらこちらに行っています。警察では栃木や埼玉、千葉、東京、神奈川くらいまでは毎年行きますね。消防でもあちこち行きますが、西の方では大阪がいました。ですから公安職は各地に散る、行政職は固まるといった傾向でしょうか。

志望と内定先の度合でいくと、第一志望に進むのが５割、６割程度といったところです。ただどの学生も本学で学び、ボランティア活動に参加したり、様々な経験を得たりするなかで、いろいろな選択肢が見えてきます。そうすると、第１希望でなく、第２希望や第３希望あたりでもそれぞれ納得して決まっていくといったところですね。

【発行】TAC株式会社 法人事業部 東京都千代田区神田三崎町3-2-18 TEL:03-5276-8918
本誌は、著作権法その他関連法令によって、著作権等の権利が保護されている著作物です。
法的に認められる場合を除き、著作権者の許可なく、無断で、複製、頒布、譲渡、貸与、転載、公衆送信等に使用することはできません 。

Q5：公務員受験の具体的なカリキュラムについてお話しをお聞かせください。

本学のプログラムについては、他の学校さんと比べて特に際立って違うものはないと思います。ただ授業時間数でいうと、配分はかなり数的推理や判断推理といった知能系科目の学習に傾けています。そういった科目は、やはり仕上がりに時間がかかります。逆に人文系にかける時間はどんどん減っていますね。以前は人文系もたくさん時間をとっていましたが、それこそSPI、特に非言語ですね。そういった方に時間を回しています。

あとは社会科学や時事といったところも、しっかりとボリュームを確保しています。これらは出題数も多いですし、他の教科とも絡んできますので。時事は社会科学の背景がちゃんと分かっていないと、理解できない部分が出てきますからね。

論作文については、文章力を高めるために、授業の中では読むこともさせています。読解力を上げるために、国語系の教員が色々と読み物を用意していますね。担任によって違いますが、短い文章を毎日３つ、４つ読ませているというクラスもあります。

ほかにも、文章理解を進めるために受験をするわけではないのですが、文章能力検定の教科書を使って、小学校や中学校、高校の国語の授業のように、様々なエッセイや文章を読んでいく、といった授業展開もありますね。

Q6：座学以外の取り組みとしてはどのようなことをされていますか？

授業外にはなりますが、行政のインターンシップや、外部の様々なボランティア、加えて学校紹介のボランティアといったことに積極的に取り組んでいます。うちの場合はここに尽きますね。

昨年の11月には台風19号の被災地を支援しに行こうということで、長野市に行ってみんなで泥かきをしてきました。とにかく外へ出ようと、外に行っていろんなボランティア活動をやっていこうと取り組んでいます。

ほかにも新潟市の駅前エリアや繁華街で、公安系の学生は警察と組んで防犯パトロールをしたり、行政系の学生たちは、周辺の商店街と組んで商店街の活性化に取り組むなど、様々な活動をしています。例えばマルシェと呼ばれるような市場ですね、それを学生たちが企画して運営したり、夏のお祭りの後のゴミ拾い出かけてみたり。社会福祉協議会を経由して、様々な施設のボランティアに行くといったこともしています。２年制学科の１年生は、勉強している時間よりもボランティアをやっている時間が多いくらいですね。

あとはインターンシップです。インターンシップに行くと、イメージだけだった行政という仕事が見えてきます。インターンシップに行った学生の多くは、やっぱりどうしてもここに行きたくなった、何がなんでもここに行こうと思うようになりましたとか、モチベーションの大きな向上が見られます。逆に何かが違うかもしれないと感じたという学生もいます。自分は福祉の仕事をやりたいと思っていたのだけれど、ひょっとしたら違うかもしれないな。それよりも土木なのかもしれない、なんて言い出す学生もいたりして。そういった何かしらを持って帰って来てくれますね。

インターンシップはどうしても参加可能人数が限られているので、漏れてしまう学生もいるのですが、そういった時は、「また秋や冬のチャンスを待とう」って。だから「夏の間はひたすらボランティアをやろうか？　それともアルバイトをするか？」とか。アルバイトも受験期にはもう辞めようねとは言いますが、それ以前の期間であれば、むしろ推奨をしています。面接試験のときにはボランティアをやったことがあるかとか、アルバイトの経験はあるかとか、受験者の社会性をみる質問も多いですからね。ほかには小学校の放課後学級のようなものに出かけて行ったり、いろいろなところで、いろいろな街のボランティアに取り組んでもらっています。

Q7：TACの教材はどのようにご利用いただいていますか？

TACの教材は、「公務員 模擬試験【教養＋適性】(全20回・採点なし)」を利用させていただいています。模試については、２年制の方では１年が終わった時期に使います。高卒程度であれば７、８月の直前の時期ですね。直前期はずっと模擬試験、模擬試験と、毎日繰り返しになりますが、その中で基礎力の定着を確認する目的で使っています。要はベースがどれだけ定着しているのかを確認するためのものということです。

私はTACさんの模試は好きですね。変に捻ったところがない素直なものなので、学生が自身の学力を確認していくという意味ですごくいい素材だと思っています。捻りすぎていても実力判定にはあまり意味がないので。そういうところがTACさんの模試にはないので、学生にはいいと思いますね。自身の定着率を確認するという意味で、非常にいい教材、素材ではないでしょうか。

【発行】TAC株式会社 法人事業部 東京都千代田区神田三崎町3-2-18 TEL:03-5276-8918
本誌は、著作権法その他関連法令によって、著作権等の権利が保護されている著作物です。
法的に認められる場合を除き、著作権者の許可なく、無断で、複製、頒布、譲渡、貸与、転載、公衆送信等に使用することはできません 。

Q8：今後の展開などについてお聞かせください。

少子化が進む中で、本校も入学者数は減少傾向にあるといえます。以前であれば、公務員系の専門学校は景気が良いとき、つまり一般企業の採用状況がよければ入学数が減り、逆に不景気になると入学者数が増えるといったような、景気に連動した波があったと思うのですが、最近はちょっと違いますね。本校でも、3年ほど前に過去最高の入学者数となりましたが、去年は少し落としまして、今年はまた上がってといったように、連動性が薄れてきているように思います。

そんな中、たとえば高卒で入学してくる学生の場合は、とりあえず公務員、といったようなふわっとした考えの者もいます。お預かりした以上はきちんと夢を叶えてあげるのが、私たちの仕事ですので、日々懸命に努力をしています。本校の校長が言っておりますが、文部科学省の学習指導要領が変わると、それによって学生の基礎学力というのは変わるものだよと。仮に今、あまり良くないと言われているのなら、次は上がるからと。ではこれに付随して、学生の本質、人物は変わるのかというと、当然のことながら必ずしも連動はしません。ですから毎年毎年、人間教育・人物育成は手を変え、品を変え、その年その年にあったものにしていかなければいけないのだと考えます。いつも同じことばかりやっていてもダメなので、その年の状況にあったものになるよう工夫をする、そこが苦労といえば苦労でしょうか。そしてこの変わり続ける努力こそが、生き残りの鍵なのかなと。

総人口はどんどん減っていきますし、それに伴い公務員全体が縮小傾向にある中で、私達のような学校はこれからどうあるべきなのか、ということも考えますが、公務員を志望する学生さんたちがいる限り、私たちの存在意義はあると思っています。最初にお話しした校訓にもありますが、世の中に貢献できる若者を輩出するというのが、本校の理想です。少なくとも公務員という職がなくなることはないはずですから、そのニーズがある限り、我々の職責として、そういった人物を育てていきたい。そこに一所懸命に邁進していきたいと思っています。

本校には卒業生が実によく遊びに来てくれます。地元にいる卒業生が多いですが、長期休暇の時期には県外に行った卒業生も来てくれますね。彼らが異口同音に言うのが、ここにいた２年間が人生で１番勉強した時だったと。たしかにそれくらい勉強をしてもらっていると思います(笑)。ただ、とても辛かったはずなのですが、その２年があったからこそ今の自分があるのだと言ってくれています。だからこそ、現在の自身の原点を確認する意味もあって遊びに来てくれているのでしょう。

ホーム（我が家）とでも言うのでしょうか、そう感じてくれているのであれば何よりだなと。送り出すまでは本当に大変なのですが、これこそが教員冥利に尽きるということなのだと思います。人として大きくなって帰ってきてくれて、今はこんな仕事していますといったような話を聞くのが、彼らの成長を実感できて何より嬉しいですね。それがあると、この仕事はやめられないなと思います。そして本校がここにあり続けるというのは、ホームとしての使命を果たすという意味で大事なことなのかなと思っています。

～インタビューを終えて～

新潟公務員法律専門学校に初めて訪れ、印象深かったことは、学生の皆さんが「こんにちは！」と気持ち良く挨拶してくれたことでした。実に雰囲気がよかったのですが、それは、行政サービスの現場を見る経験や、様々なボランティアに参加するなど、人物試験対策の取り組みに非常に注力されていることが、そのまま現れているのだと分かりました。ただの公務員試験対策ではなく、人間教育に注力されている点が、最大の魅力だと感じた専門学校でした。

TAC株式会社　教育第五事業部

事業部長　松下 拓也 (公務員担当)

「栞」では、専門学校インタビュー以外にも、さまざまな情報発信をしています。
「TAC 専門学校向けサービス」ホームページより栞デジタル版をダウンロードいただけますので是非ご覧ください。

「TAC 専門学校向けサービス」HP

https://www.tac-school.co.jp/senmongakko/

【発行】TAC株式会社 法人事業部 東京都千代田区神田三崎町3-2-18 TEL:03-5276-8918
本誌は、著作権法その他関連法令によって、著作権等の権利が保護されている著作物です。
法的に認められる場合を除き、著作権者の許可なく、無断で、複製、頒布、譲渡、貸与、転載、公衆送信等に使用することはできません 。